主日の福音 2024/12/29(No.1332)

聖家族(ルカ 2:41-52)

イエス様はあなたの家族になっていますか

中田神父は毎週祭壇の上と、説教している自分の様子だけ収録して、YouTube にアップしております。聖堂全体の様子を収録すると、侍者の顔も映るし、皆さんの顔も聖体拝領の時に映って、「見られたくない」と誰かが拒めば、何年も続いてきた宣教活動の一つが止まってしまうので今の形を続けております。

それでもご降誕の夜半のミサは、記録として残すために聖堂二階から撮影しておりました。録画を後で確認したら微笑ましい出来事が収められていました。ミサの最後、閉祭の歌「もろびとこぞりて」の流れる中、侍者と助祭と司祭が馬小屋のイエス様を礼拝して帰る場面に、二階でミサに参加していた幼い子供の声をビデオカメラが拾っていました。

拾っていた声は、お母さんにこう尋ねている声でした。「イエスさま生まれた？」私はその子にこう答えたいです。「二階ではなく、馬小屋に行って確かめてごらん」と。もしその子が、両親と一緒に馬小屋を訪ねて確かめたなら、その家族は幼子を受け入れたのですから、聖家族に見倣う家族となるでしょう。もし確かめずに、二階からそのまま玄関を出て家に帰るなら、聖家族の姿はその家族から遠いでしょう。

聖家族の祝日に、主任司祭が伝えたいことは夜半ミサの微笑ましい出来事で皆さんにお伝えしました。私たちの家族にもイエス様が生まれて、イエス様を囲んで生活していく。そうすることで私たちは聖家族の模範を学びながら成長することができます。

もしかしたら、こう考えている人がいるかもしれません。「私たちは自分たちの生活を考えるのが精一杯で、信仰生活を豊かにする余裕など、現実の生活では望めません」と。ここで、過越祭のときエルサレムに残ったイエス様がマリアとヨセフに言った言葉を思い出す必要があります。「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」（2・49）

「わたしが自分の父の家にいるのは当たり前です」と、少年イエスは言っています。今年の夜半のミサは、ずいぶん参加者が増えていました。クリスマスしかミサに来ない人が、きっとたくさん来ていたのでしょう。しかしなぜ、クリスマスしか来ないのでしょうか。幼子イエスを自分たちの生活にも迎え入れて、聖家族の模範を仰ぎたいからではないでしょうか。イエスが私たちの家にいるのは当たり前だと、知っているから夜半のミサに来るのではないでしょうか。それとも知らなかったのですか？

無意識であれ、私たちの教会には生活の中にイエスがおいでになることを喜んでいる家族がたくさんいるようです。イエスがいてくださることには安堵しながら、イエスの照らし導きは必要ありませんというのは虫が良すぎます。イエスはこの世にお生まれになり、とどまり続ける場所を必要としておられます。共に暮らす家を探しておられます。

そうであれば私たちの中に、イエス様が話を聞いたり質問したりできる場所を用意してあげましょう。自分のことで精一杯と考えている人は、自分中心に生活のすべてを埋め尽くしてしまおうと思い込んでいるわけです。果たして自分の満足で生活は埋め尽くせるのでしょうか。むしろ神が共におられて満足する生活こそ、全てが満たされる生活なのです。自分の満足は、どれだけ追い求めても限度がなく、満たされないからです。

聖家族の姿は、家族のあり方をもう一度考えさせてくれます。あなたの努力だけで、家族を満たそうとするのですか、聖家族の姿を模範に、神が共にいる生活で満たされたいですか。馬小屋飾りが置かれているのはあと二週間です。それまでに、各自の答えを出しましょう。

神の母聖マリア(ルカ 2:16-21)